

旭福祉センター・第二旭福祉センター

令和3年度 事業計画書

※中期経営計画に基づいた令和3年度の単年度目標

I. 利用者ニーズ起点による既存事業の安定経営

【グループホーム】

事業課題（1）：「世話人の高齢化対策と支援技術向上」

① 世話人との意見交換会の実施

定例会を支援力の強化も含めた内容にグレードアップさせ、幹部や関係職員も出席することで、より一層の支援力向上と情報共有を目指す。

事業課題（2）：「利用者の重度・高齢化対策」と「利用ニーズの増加」への対応

① 旭センターグループ1つ目の包括介護型グループホームの体制確立

1つ目の包括型グループホームの運用体制を確立するとともに、2つ目の包括型の必要性について検討に入る。

② グループホーム（9つ目）の検討

旭センターグループとして9つ目のグループホームの検討に入る。

【入所】

事業課題（1）：「入所棟新設に伴う土地買収と建物新設」

① 土地買収手続きの遂行

現在 折衝中である所有者との接触を仲介業者に依頼し、状況の把握と打開策を練る。

② 入所棟新設に伴うシミュレーションの実施

入所・日中活動支援型グループホーム双方のシミュレーションを実施し、移行体系を検討する。

【就労継続支援B型】

事業課題（1）：「新規の作業・商品・利用者の開拓」

① 新規事業の開拓と販路拡大・新商品の開発

現状分析・情報収集を実施し、具体的な戦略を決める。（新商品開発チーム）

② 作業の質の向上

育成シートを活用した作業スキル向上の施策を実行する。（作業委員会）

③ 機械化による高効率化

まずは、当グループの既存作業の現状分析を行い、機械化できるのか、そして機械化するメリットがあるのかも含め検討する。（幹部職員）

④ 新規利用者獲得

チラシ・SNS・学校訪問等による認知度向上を目指す。（取組みの発信）

【生活介護】

事業課題（１）：「利用者の重度・高齢化に合わせた支援やプログラムの提供」

① 先進的な他施設の訪問計画及び、情報収集

現行体制の幅を更に広げるために、先進的な他事業所を見学し、今後の方向性を決める指標とする。

② 介護プログラムの確立：音楽療法カリキュラムの知識・技術伝承

今年度は、音楽療法の新しいカリキュラムを策定する。

③ 新規創作作品の開発・販売

新規創作作品の原材料となる作品を製作、今年度は原材料の発掘に専念する。次のステップとして新商品開発チームと連携を取り、商品化を模索する。

【就労移行】

事業課題（１）：「認知度向上・就労移行カリキュラムの充実・就労機会の確保」

① 就労移行事業のアピール強化による新規利用者の獲得

就労移行専用のパンフレットを作成し、また、SNS等も活用した宣伝計画を立案・実行し、新規利用者の獲得を目指す。

② 就労カリキュラムと就労支援員の育成

先進的な他事業所への見学・研修を実施し、今後の方向性を探るとともに、新しい就労カリキュラムの修正を行う。

③ 実習先の確保と就労先への定期的な訪問

実習先となりうる企業の情報収集を行い、新しい実習先を選定する。また、既存の就労先へは具体的な訪問計画を立て、実行する。

Ⅱ. 人が育つ組織づくり

(1) 「職員定着プロジェクト」の立ち上げ

① 組織風土診断や定着者・退職者の分析

より良い職場環境をつくるために具体的な情報収集を行う。

職員の満足要因・不満足因子を分析した上で、効果的な具体策を検討する。

組織診断は毎年実施することで、経年比較を行い施策の有効性を検証する。

② 管理職と職員の対話促進

課長・主任クラスの管理職が部下との面談を行うことで、業務への不安や不満などを早い段階から把握し、組織全体に働きかけながら解消方法を模索する。面談時に必要なスキル（コーチング力）については、研修や振り返りを実施することで法人全体で管理職の面談スキルを高める。

(2) 「ONE TEAMプロジェクト」の立ち上げ

① 職員同士の対話を促進

「自分たちの仕事のやりがいは自分たちで見つけ、作り上げていく」このような取り組みの認知・称賛制度として「T-1グランプリ」を開催する。

やりがいを感じることができたチームでの取り組み事項を他部署へ発信し、表彰することでモチベーションの向上と対話の重要性の浸透を図る。

② 役職ごとの役割定義策定と職員への浸透

各役職（課長・主任・チーフ等）ごとに期待されている役割を明確に設定し、各階層の職員がそれぞれ然るべき業務・役割を遂行できる体制を確立する。そのために、まずは現在の等級制度の定義を見直し、実態に沿った精度へ改定する。

Ⅲ. 計画的な新規事業の創造

(1) ネット販売プロジェクトチームの立ち上げ

DX（デジタルトランスフォーメーション）は、今後の社会に欠かせないツールになると推測される。そこで、その1つであるネット販売の開始を最終目標として定め、今年度は現状分析と情報収集を中心に活動し、今後プラットフォーム選定をするうえでの情報収集に努める。（ネット販売チーム立ち上げ）

(2) 新店舗立ち上げプロジェクト

Café NODOKAとベーカリー楓の設立から11年、当時の基本コンセプト「我々が元々持っているポテンシャルを活かし、更に発展させる。」というテーマは達成できた。次のコンセプトは「社会と繋がる。そして発信する。」このことを基本コンセプトとして新店舗の立ち上げを行う。（専門チーム立ち上げ）

IV. 各委員会の重点目標

| | 委員会名 | 2021年度 重点目標 |
|----|---------|----------------------------------|
| 1 | 支 援 | 職員の個別支援計画作成に関する知識、技術の向上 |
| 2 | 生 活 | 役割分担及び居室チェック表に基づいた生活環境の改善 |
| 3 | 作 業 | 育成シートの適切な運用、職員理解度の浸透・各作業班製販計画の達成 |
| 4 | 地 域 | 各バザーのフロー表に基づいた計画の実行とフィードバック |
| 5 | 事 務 | 事務業務の円滑な遂行と効率化の推進 |
| 6 | 炊 事 | 個々のニーズへの対応・作業全体の効率化 |
| 7 | 職場改善① | 新人職員へのフォローアップ体制の継続と研修の実施 |
| 8 | 職場改善② | 年間目標の確実な実施・職員育成体制の充実・職員必携の活用 |
| 9 | 人権擁護 | 情報共有の徹底・効果的な研修の実施 |
| 10 | 地域貢献 | 地域の方々との深い関わりの継続 |
| 11 | 行 事 A | 利用者の安全を確保した行事計画の早期立案・明確な役割分担 |
| 12 | 行 事 B | 決まり事の周知と徹底・行事優先度の周知 |
| 13 | 行 事 C | 行事のフローの再確認及び早期計画・早期周知の徹底 |
| 14 | 入所・GH旅行 | コロナ禍でも楽しめる企画の立案・早期計画の実施 |
| 15 | 広 報 | 計画に基づく確実な実行と情報共有 |
| 16 | 総 務 | 有給休暇の推進・連続休暇取得(4日)の推進と確認 |

IV. 各作業班の重点目標

| 作業班別 | 2021年度 重点目標 | 2021年度 目標額 |
|--------|-------------------------------|---------------|
| NODOKA | 集客率アップ・接客サービス向上・料理開発 | 7,450,000 |
| 楓（菓子班） | 人材育成、協力体制の確立、新規事業開拓(移動販売) | 17,650,000 |
| 竹 工 | 人材育成・職員間の連携・利用者の適材適所推進 | 4,000,000 |
| 蔬 菜 | 協力体制の確立・人材育成・地域住民との交流 | 4,350,000 |
| メンテナンス | 育成シートと OJT を活用した人材育成・新規利用者の確保 | 22,800,000 |
| 陶 芸 | 人材発掘と育成（絵付作業） | 1,200,000 |
| 施設外就労 | 利用者支援の強化・関係機関との連携強化 | 5,200,000 |
| 味 噌 | 生産・行事等への早期計画 | 1,450,000 |
| 合 計 | | 64,100,000 |

以上